

構成案

I 検討の経緯

- 1 周辺協議会における検討
- 2 検討市民会議における検討
- 3 市の計画、市民意見の聴取

II 基本理念

- 1 環境啓発の必要性
- 2 コンセプト
- 3 目指すもの
- 4 基礎にある考え方
- 5 基本的な方向性

III 機能

- 1 本市における施設の位置付け
- 2 効果的な環境啓発の手法
- 3 施設の基本的な機能
- 4 多様な連携、協力

IV 空間の利用

- 1 再利用施設
- 2 空間の使い方
- 3 リノベーションのイメージ

V 管理運営

- 1 運営の考え方
- 2 必要なコスト
- 3 評価、検証のあり方
- 4 運営上の留意点

VI 市の環境啓発事業とエコプラザ（仮称）事業との連携

VII 今後のスケジュール

～資料編～

内容案

I 検討の経緯

武蔵野市エコプラザ（仮称）は、クリーンセンターの建て替えに伴い、新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会において、エネルギー供給施設としてのエコセンター（新クリーンセンター）とともに、ライフスタイルの変化やごみの減量を促す環境啓発の拠点として提案された施設です。市の基本的な考え方をまとめるまでの様々な検討経緯について記載します。

1 新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会における検討

- ・新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会の議論の変遷
- ・第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会エコプラザ（仮称）事業 中間まとめ

2 エコプラザ（仮称）検討市民会議における検討

- ・検討の経緯
- ・検討のまとめ

3 市の計画、市民意見の聴取

- ・都市計画の決定
- 敷地全体をごみ処理施設として都市計画決定
- ・市の計画の変遷
- 第四期長期計画・調整計画、第五期長期計画、第五期長期計画・調整計画
- ・市民意見の聴取
- ワークショップ（H28）、モノづくりワークショップ（H28）
エコマルシェ・環境フェスタブース出展（H29～）
講演会（H29）、市民団体ヒアリング（H30）

II 基本理念

武蔵野市エコプラザ（仮称）の基本理念は、新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会での議論を引き継ぎ、エコプラザ（仮称）検討市民会議で検討したことを中心にまとめます。

1 環境啓発の必要性

- ・環境啓発の必要性
- 地球温暖化が進み、その主な原因とされる温室効果ガスが増加したことで、世界中で大型台風やハリケーンが、日本でもゲリラ豪雨や真夏日が増加し、私たちの日々の生活に深刻な影響を与えている。
- 環境問題は一人一人の行動が無ければ解決できないため、エコプラザ（仮称）では、こうした地球温暖化を背景に、ごみをはじめ多様な環境問題や環境の大切さなどを啓発することで、市民一人一人の自発的で主体的な行動を促す。

2 コンセプト

- ・共創による未来に誇れる場づくり
～みんなでつくろう！子どもたちに未来をつなぐエコプラザ～
[キーワード：共、創、子ども・未来、場]

3 目指すもの

- ・市民一人一人の環境にやさしい行動
- ・SDGs（持続可能な開発目標17項目）

4 基礎にある考え方

- ・リスペクト
- ・市民参加
- ・コレクティブインパクト
- ・メタボリズム（新陳代謝）
- ・ゼロウェイスト

5 基本的な方向性

- ・低炭素モデルの実現
- ・地域力の向上
- ・まちづくりとの連携
- ・生活との接点

III 機能

武蔵野市エコプラザ（仮称）では、多様な環境問題や環境の大切さ、環境同士のつながり、循環などを知り、考え、行動し、活動する方の、それぞれのプロセスを支える様々な機能を展開します。施設の位置付けや連携などについても併せて記載します。

1 本市における施設の位置付け

- ・多様な環境啓発を行う施設
- ・全市的な施設
- ・誰でも利用できる、来館しなくても関わることのできる施設
- 市民をはじめ、様々な人や団体・企業など誰でも利用できる（プログラムなどによっては市民優先）

2 効果的な環境啓発の手法

- ・環境問題の根源を考える
- 環境問題の根源や本質を考えることができるようなプログラムを実施する。
- ・プロセスを学習する
- きっかけから関心、理解から行動へとつながるように、目的を明確にして、そこに至るまでの学び方を学ぶ。
- ・多様な主体による啓発
- 市による啓発だけでなく、市民から市民への啓発や民間力による啓発など、多様なアイデアを生かした啓発の取り組みを展開する。
- ・利用者視点の事業展開
- 年齢や関心度、行動レベルなど、利用者に合わせて、主体性を引き出せるような啓発を大切にする。
- ・楽しさを取り入れる
- 関心のない市民や若者たちが気軽に参加できるような楽しさ、インセンティブなどを取り入れる。

キーワード

体験、モチベーション、身近さ、おしゃれさ、環境に良いライフスタイルなど

3 施設の基本的な機能

・情報収集・伝達

○専門的・客観的な情報 **(一元化・体系化)**

○アーカイブ

○情報の伝達

・学ぶ、学び合う

○展示

○参加・体験

○行動・活動

○探究・創造

○ESD (= 持続可能な開発のための教育)

・つなぐ

○環境分野をつなぐ

○人と人をつなぐ

○世代をつなぐ

・育てる

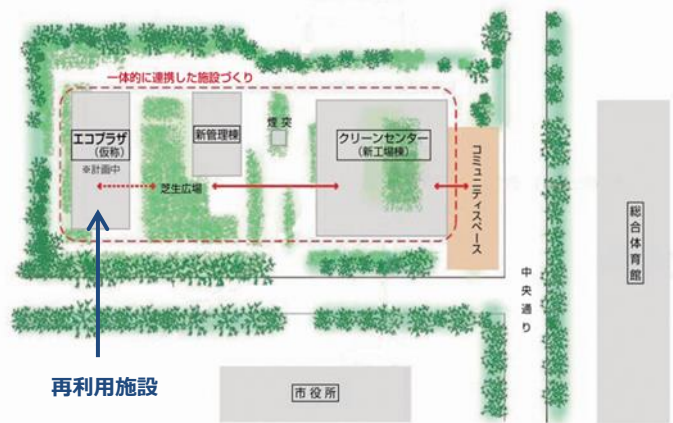
○環境への興味を育てる

○活動を育てる

・支える

○相談

○支援



4 多様な連携、協力

・クリーンセンターとの連携

○エコプラザ(仮称)は、クリーンセンターとハード・ソフトの両面で連携し、相乗効果を生み出していく。ハード面では施設内部だけでなく、芝生ひろばや雑木林をイメージした外構なども使いながら、取り組みを進めていく。

・庁内連携

○環境は様々な分野と関わりがあり、庁内においても連携できる取り組みがある。各課の事業の現状を調べ、多様な連携を図っていく。(詳細はVIで記載予定)

・市内連携

○現在も、様々な企業や市民団体等が環境啓発事業を行っている。エコプラザ(仮称)では、環境を切り口としたネットワークを構築し、事業のマッチングや情報の一元化などに取り組んでいく。

・他自治体の環境学習施設などの連携、協力

○全国各地の環境学習施設や自治体等と連携し、多様な環境啓発の取り組みに広く取り組んでいく。

○友好都市をはじめ様々な自治体とのつながりの中で、エコプラザ(仮称)から環境に根ざした地域づくりを発信していく。

IV 空間の利用

エコプラザ(仮称)は、建物を壊さず、ガレキを出さないといった環境への配慮から、クリーンセンター敷地内の旧事務所棟と旧プラットホームを再利用して整備します。

ここでは、エコプラザ(仮称)検討市民会議で行ったグループワークの意見などを中心にまとめていきます。

1 再利用施設

・旧事務所棟と旧プラットホーム

○耐震上の理由から旧事務所棟は3階部分を減築し、1、2階部分を使用する。使用面積は、合せて計2,000㎡。

※具体的な活用案については資料1に記載

2 空間の使い方

・基本的な考え方

3 リノベーションのイメージ

・おしゃれにリノベーション

○エコプラザ(仮称)では、なるべく新品を使わずに、再利用したもの(リサイクルではなくアップサイクル)を使う。廃材をおしゃれに見せて、施設も、使う備品・工具・遊具なども、古くても価値のある、使ってみたいと思わせるものを選んで使っていく。

・アートな空間づくり

V 管理運営

エコプラザ(仮称)は、多様な環境啓発の拠点として、環境のことを考え、行動する地域づくりを進め、まち全体に広がっていきます。多様な環境についての専門性だけでなく、本市の特性である市民提案・市民参加を取り入れながら運営を行う必要があります。

具体的な運営体制などについては、今後議論を進め、改めて管理運営方針としてまとめます。現時点では、エコプラザ(仮称)検討市民会議で議論のあった運営のイメージを基に、市の考え方としてまとめ、記載する予定です。

1 運営の考え方

・運営形態

・運営のイメージ

※具体的な案は次頁の表1・図1参照

・運営者

○運営者に求められる資質

①顔が見える関係の構築

②耳を傾けて聴く姿勢

③エコプラザの顔

④広範な環境についての専門的な知識

⑤アイデアを形に仕向けるファシリテーター

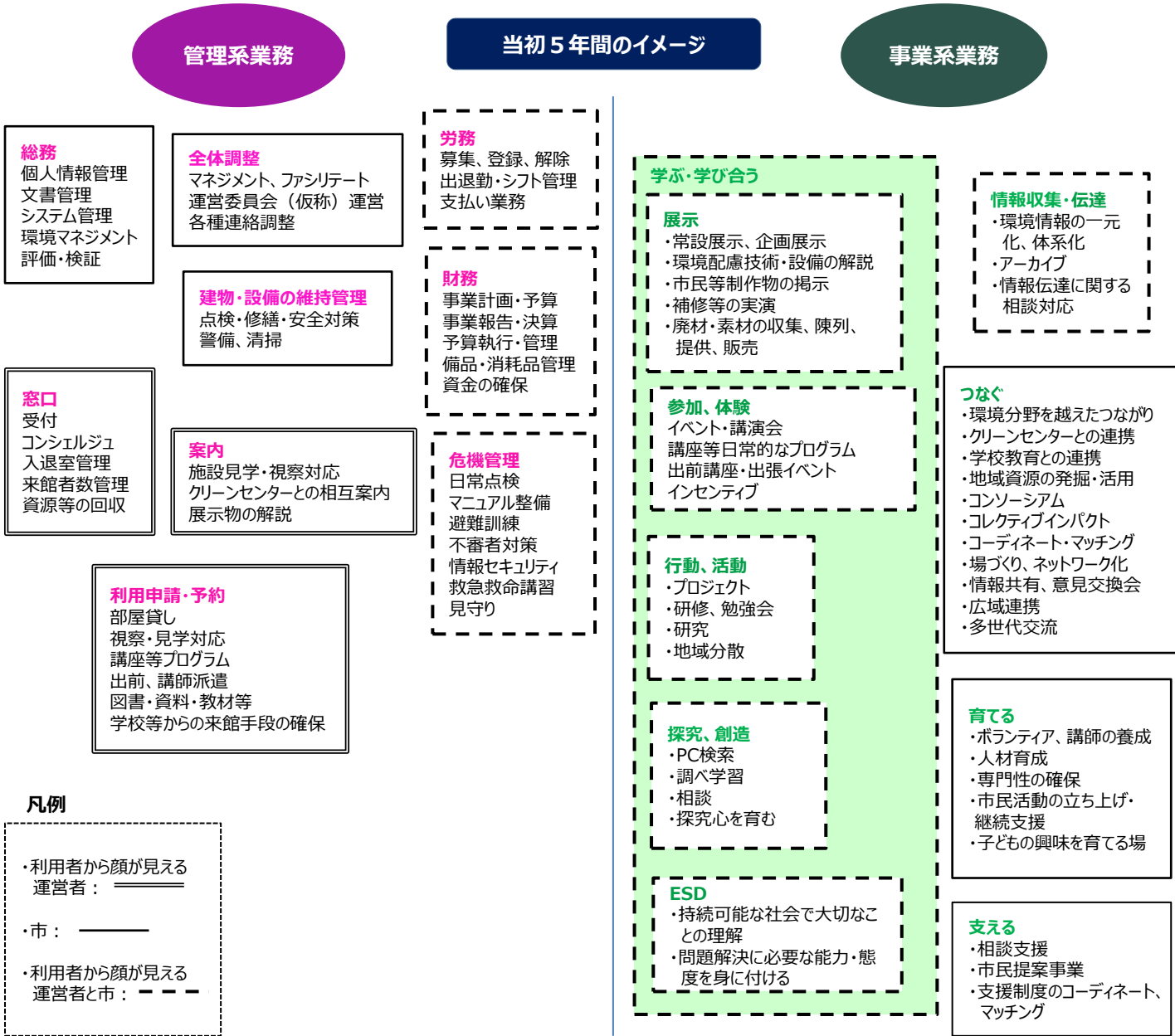
(類似施設の立ち上げ経験や継続的な市民参加の事業経験、デザインのプロなど)

・管理運営の方針の方向性

表 1

当初5年間のイメージ（直営+事業委託・市民参加）						5年後イメージ
施設の業務	管理系業務				事業系業務	全業務
	全体調整、総務	建物・設備の維持管理	労務、財務、危機管理	窓口、案内、利用申請・予約		
運営者	市 ※市の連携力・経験を生かす	市 ※一部専門業者に委託	市 利用者から顔が見える運営者	利用者から顔が見える運営者	市 利用者から顔が見える運営者	指定管理者？ or 新しい手法？

図 1



2 必要なコスト

- ・イニシャルコスト
- ・ランニングコスト

3 評価、検証のあり方

- ・事業の評価
 - 来館者数
 - ポートフォリオ
 - ソーシャルインパクト
- ・事業の検証

4 運営上の留意点

- ・クリーンセンター敷地内の一体的な利用
- ・市民（団体）・企業などのネットワークの構築
- ・エコプラザ（仮称）運営協議会（仮称）の設置
- ・情報伝達の仕組みづくり
- ・関わる人づくり

Ⅵ 市の環境啓発事業とエコプラザ（仮称）事業との連携

エコプラザ（仮称）では、市の環境政策目的にかなった啓発事業を展開するとともに、市と市民（団体）、事業者などとのつながりを大切にしながら、環境問題について一緒に考え、持続可能な社会を目指していきます。

具体的に連携ができそうな市の環境啓発事業などについて、記載する予定です。

Ⅶ 今後のスケジュール

「エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方」は、9月に議会に報告した後、同月15日号の市報において、パブリックコメントを実施します。

併せて無作為抽出ワークショップやオープンハウス形式のヒアリングなどご意見をいただき、それらを反映した修正案を11月に議会に報告する予定です。

ここでは開設までのスケジュールを含めて記載します。

～資料編～

- ・環境について考える中高生世代ワークショップ（H28）
- ・エコプラザ(仮称)整備に向けた一般向けワークショップ（H28）
- ・エコプラザ(仮称) ×モノづくりワークショップ（H28）
- ・エコマルシェ・環境フェスタブース出展（H29～）
- ・地球温暖化について講演会（H29）
- ・市民団体ヒアリング（H30）